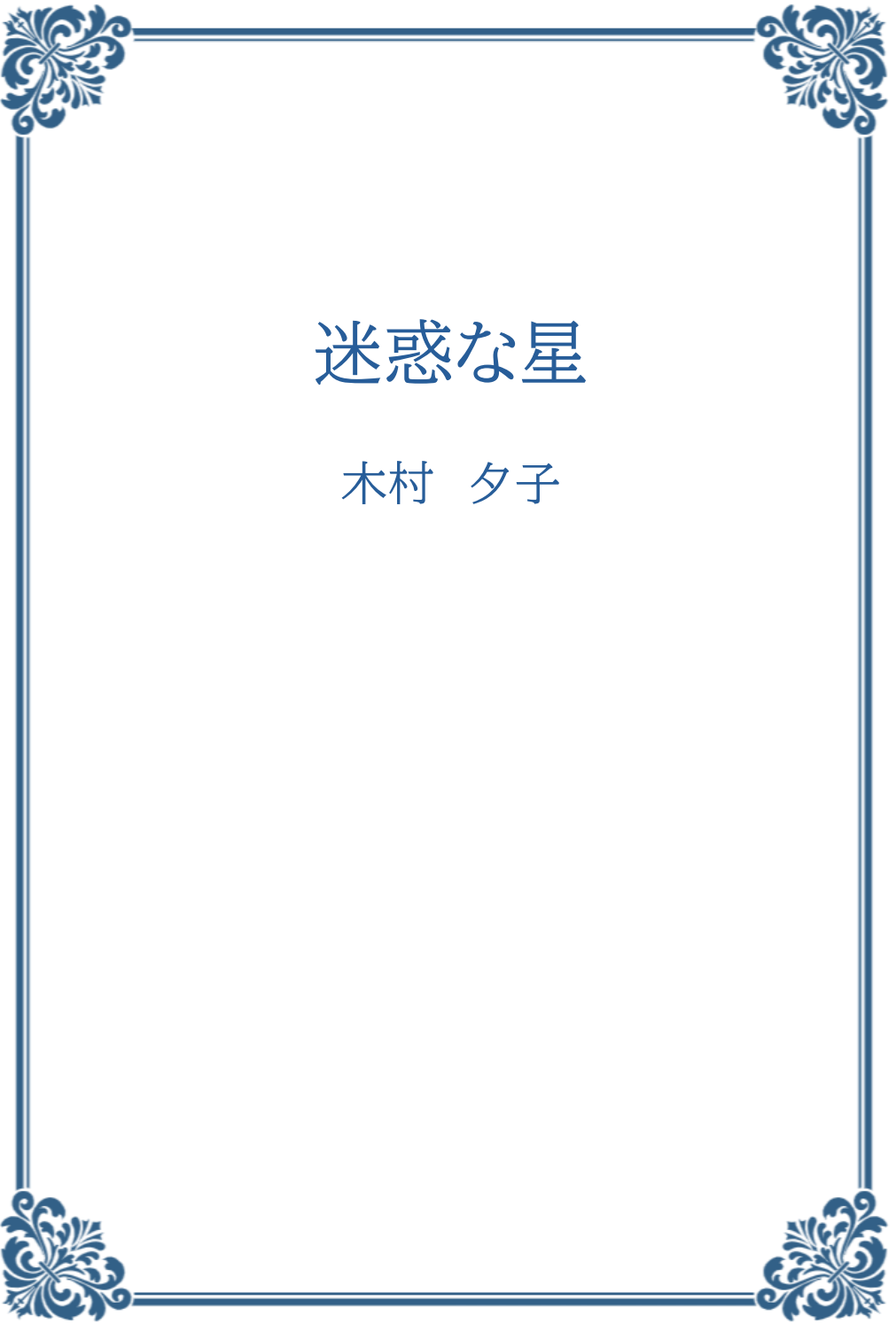




迷惑な星

木村 夕子

カッブルが夜空を見上げて、うっとりしていた。

「きれいな、星空って。」

「まるで宝石箱を散りばめたようだ。」

数億ある星の中に一つだけ不自然な星があった。普通、星というのは宇宙空間に吊り下げられたようにあり、他の星と引き合ったり、反発したりしながらバランスのとれた安定した状態でそこに留まっている。宇宙の法則に従って、星は存在し、消滅していく。

ここに一つの恒星があった。恒星とは自ら光を放つ星で、いわゆる太陽のような星である。この恒星はなぜか惑星をもっていなかった。惑星とはいわゆる地球や水星や金星のことである。太陽でありながら惑星をもたないめずらしい星であった。

なので少しわがままである。

流星のふりをして流れてみたり、月のそばで輝いて、宵の明星（金星）のふりをしたり、北斗七星にまじって、柄杓のえの部分で少し長めになったりしている。それでは北斗八星である。冬にオリオン座が夜空に輝きはじめると、三つのベルトに加わって、きれいに並んだりもする。オリオンはメタボリック症候群になっ

てしまっている。地球で“しし座流星群”なるものが話題を呼ぶと、それにまじって流れていく。皆既日食だと皆が騒ぐと、地球―月―太陽の延長線上に一緒に並ぶ。とても不思議な星であった。

全能なる宇宙の神はこれを見のがさなかった。すべての星が規則正しく、宇宙の法則に従っているというのに……。

「ちょっと、その恒星。」

「はい。」

今日はカシオペア座の“W”の横に加わり、単なる山ぎりカットにしか見えない状態で安定していた。

「君は恒星なら恒星らしく、じっとしていなきやいけないのだが・・・。」

全能なる宇宙の神は何か自分に不手際があったのではないかと不安になり、ペラペラと、星の誕生と歴史の書を調べはじめた。

「あああった、あった。君は一〇〇〇年前に誕生したばかりのまだ新星だね。わからないのも無理はないが・・・」

全能なる宇宙の神はやはり頭を悩ませた。

「なぜそんなことをしているのかナ？」

「僕はいったい何のために生まれたのでしょうか？」

「・・・」

「僕には惑星もないし、これといって役に立つ訳でもないのに、ただじっとして光っている！なんて・・・僕にはできません。」

「しかし・・・そのようなことをしては宇宙の法則が乱れてしまう。役に立つまでには時間がかかる、君がきちんと定められた場所にいてくれないことには、これからの宇宙の成り立ちに大きく左右してしまう。退屈なのは分かるがね、もとの位置にもどってくれないかね。」

「いやです。」

そう言って恒星はプイッと横を向いた。

意外にも頑固な恒星の態度に全能なる宇宙の神も、我を忘れてビッグ・バンを起こしそうになった。が、ふ

と、思いついた。宇宙の片隅に、ちりのように今にも滅びそうな星があったつけ。もうあと数十年と想っていたが、それを友達にしてあげよう。

カシオペア座の隣にいた恒星をもとの位置にもどし、さびれてくちはてそうな星を恒星の横に置いてみた。星はゆっくり恒星の周りをまわりはじめた。恒星はじつとそれをみつめていた。

（なんて薄汚れた小さな星なんだろう・・・今にも壊れてしまいそうだ。僕の光でなんとかならないものか。）

星は静かに、黙ったまま恒星の周りをまわっている。何日も何年も、ずっと・・・さびれたその星はなんとか温度を保つことができ、恒星のおかげで星の寿命を伸ばすことができた。星はくるくると恒星の周りを公転し、目が合うとニコツとして、

「ありがとう」と言った。

恒星はそこに留まった。

（小さな星のためにずっと僕は輝き続けなければ・・・）

全能なる宇宙の神はほっとため息をついた。しかし「星の誕生と歴史」の書を訂正しなければならなくなかった。あの小さな星は本来ならもう存在してはいないはずなのである。全能なる宇宙の神はその書に「新たな星の歴史」を書き加えた。

おわり

めいわく ほし
迷惑な星

2025 年 10 月 25 日 発行

著者 きむら ゆうこ
木村 夕子

令和 7 年度 函南町立図書館 8 月～11 月 Y A 展示・企画冊子
編集・製本・発行 函南町教育委員会生涯学習課（函南町立図書館）
電話番号 055-979-8700
住所 419-0122 静岡県田方郡函南町上沢 107 番地の 1

当作品について転載・複製・複写・翻訳を著作者の許可なしに行うことを固く禁じます。（著作権法上での例外を除く。）また、個人や家庭内の利用であっても、代行業者等の第三者に依頼して無断でスキャン及びデジタル化することはできません。作品の著作権は著作者に帰属しますが、函南町立図書館は作品を永続的に無償で使えるものとします（主に公開にあたっての編集、印刷、配布、掲載に関すること）。ただし、当館は著作者の創作性を重視し、作品内容には関与しないものとします。また、すべての文章は原文のままとし、当館で校正・校閲作業は行っておりません。

ある時夜空に勝手な行動
をする星がいました。全能
なる宇宙の神がその理由を
たずねます。どうして星は
勝手に動いていたのでしょ
うか？宇宙の神は星にどう
したでしょうか？夜空を見
上げた時ちよつとだけ星の
気持ちを考えてみません
か。

